

パネリスト

警察庁 生活安全局 少年課長 滝澤 依子



平成30年7月20日

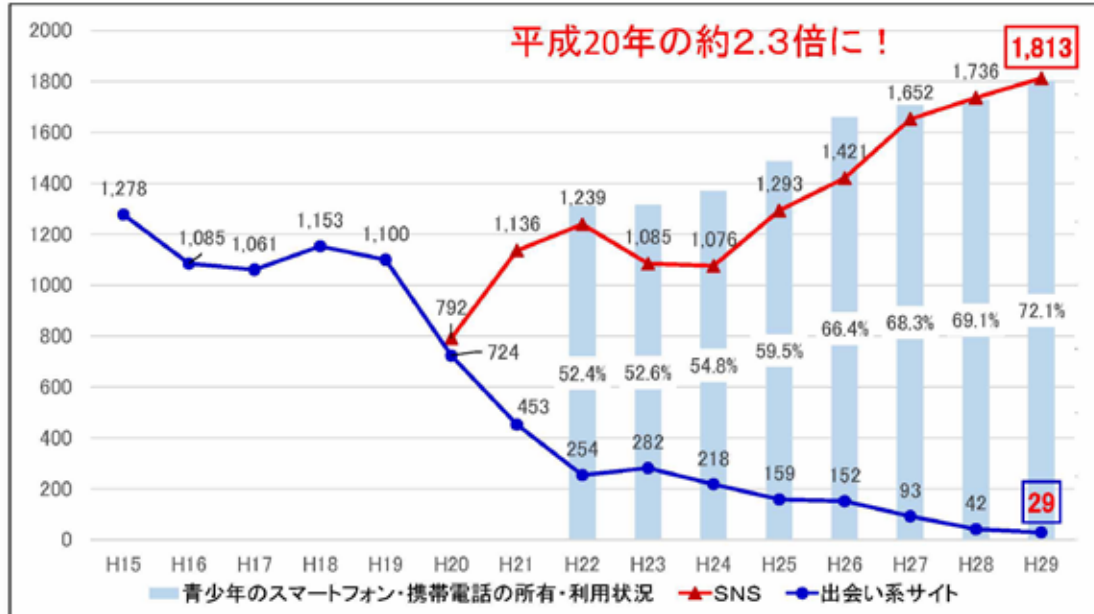
インターネット利用に係る犯罪被害 から青少年を守るために

警察庁生活安全局少年課
課長 滝澤 依子

御紹介いただきました警察庁少年課長の滝澤です。本日は説明の機会を頂きまして本当にありがとうございます。

SNS等に起因する事犯の被害児童数の推移

- SNSに起因する事犯の被害児童数は、青少年のスマートフォン等の所有・利用状況の増加に伴い増加傾向。
- 一方、出会い系サイトに起因する事犯の被害児童数は、平成20年の法改正以降減少傾向。



※ 青少年のスマートフォン・携帯電話の所有・利用状況(統計数値)については、内閣府ホームページから引用

2

早速ですが、統計から御紹介したいと思います。SNS等に起因する事犯の被害児童数の推移を示しています。赤いグラフがSNSに起因する被害児童数で、平成20年からの統計ですが29年は1,813人で過去最多となっており、近年は過去最多を更新している状況です。

罪種別の被害児童数の推移(SNS)

罪種別では、児童ポルノ及び児童買春の被害児童数が増加。他罪種はほぼ横ばい傾向。

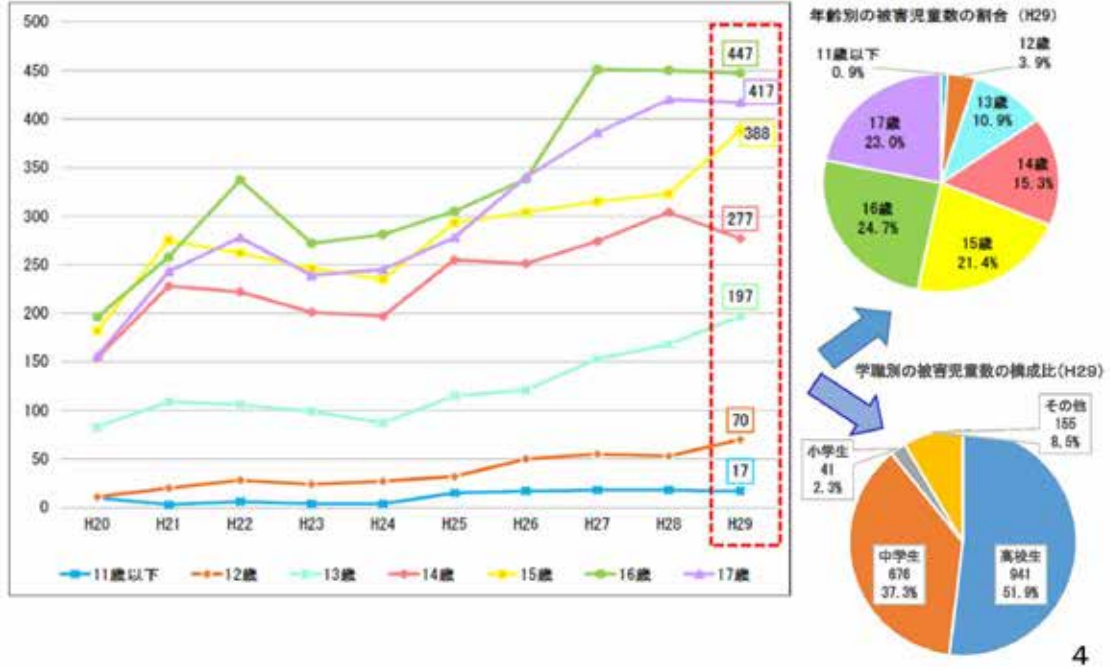


3

次の表を御覧ください。どのような被害に遭っているかでは、緑が青少年保護育成条例違反の被害、黄色が児童ポルノの被害、赤色が児童買春の被害であり、このような被害が多くなっています。重要犯罪も3.4%に上っており、誘拐などの被害に遭っている子もいます。

年齢別の被害児童数の推移(SNS)

- 13歳以上の被害児童が多い。被害児童の最低年齢は8歳(小学3年生)で、平成20年以降で過去最年少。
- 学識別では高校生が約5割で最多。

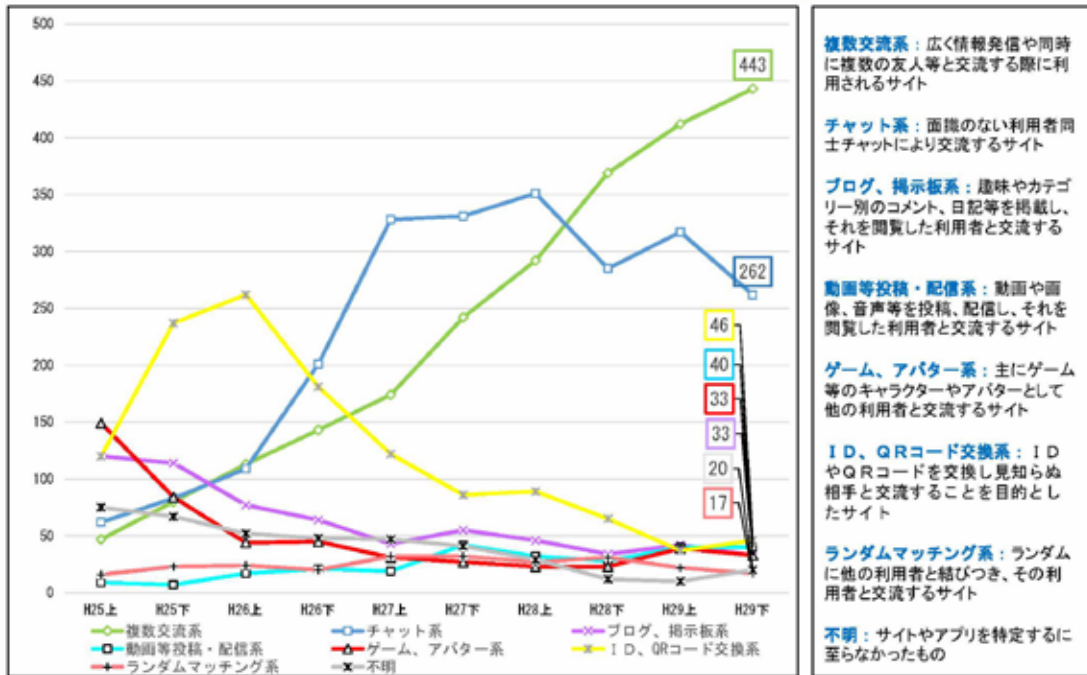


4

次の表は、年齢別の被害児童数の推移です。18歳未満でとって、大体被害に遭い始めるのは13歳ぐらいから14、15、16、17と中高生が多くなっていますが、11歳以下の子もいます。一番小さかった子は、小学校3年生でした。

主なSNSのサイト種別の被害児童数の推移

サイト別では、「複数交流系」が増加傾向にあり、他種別は、横ばい又は減少傾向。



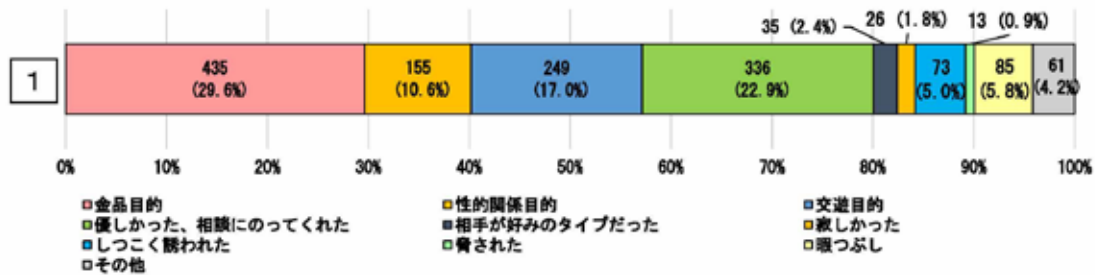
5

主な SNS のサイト種別の被害児童数の推移です。聞き慣れない分類にしていますが、SNS にもいろいろあります。複数交流系とは、広く情報発信をしたり、友人と交流したりできるところで、Twitter や LINE などがここに入ります。この複数交流系の被害が多くなってきています。

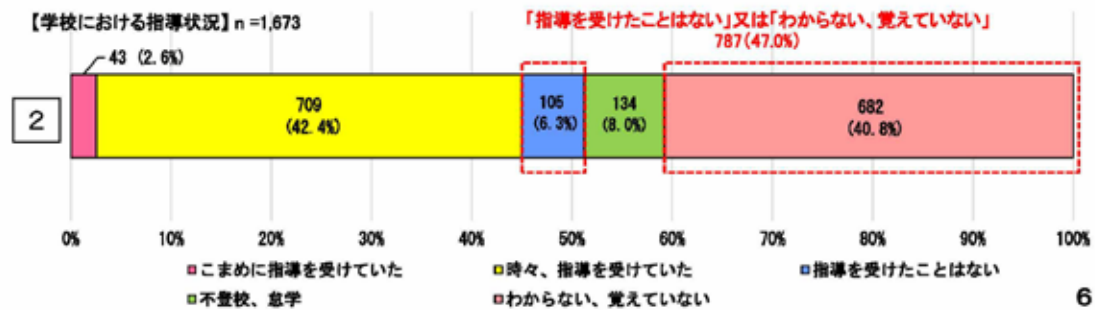
SNSにおける被害児童の現状

- 被疑者と会った理由では、「金品目的」及び「性的関係目的」に関連する理由が4割強を占める。
- 学校における指導状況では、「指導を受けたことはない」又は「わからない、覚えていない」と回答した児童が5割弱を占める。

【被疑者と会った理由】n=1,468



【学校における指導状況】n=1,673



6

次に SNS における被害児童の現状です。被害を受けた子に被害を受けるに至った経緯を聞きました。

まず加害者と会った理由です。大体会うことで児童買春等の被害に遭うわけですが、一番多いのは「金品目的」でした。一方で、緑のところですが「優しかった、相談にのってくれた」これも非常に多くなっています。

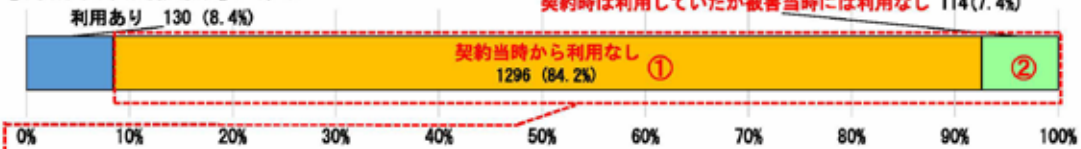
被害に遭った子供たちに、学校で SNS の使用方法やインターネットとの付き合い方などについてどのような指導を受けていたか尋ねると、「指導を受けたことがない」や「わからない」が5割弱でした。

本当は、学校で聞いたり教わったりしているかもしれませんが、少なくとも本人はよく覚えていなかったり、全然記憶にないが半分程度となっています。

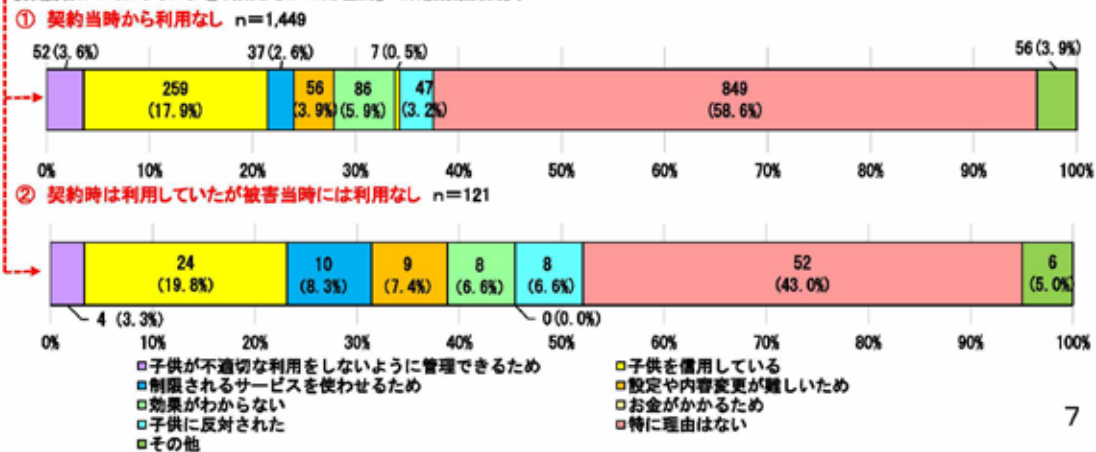
フィルタリングの利用状況

- フィルタリングの利用の有無が判明した被害児童のうち、8割強が契約当時から利用していない。
- 契約当時からフィルタリングを利用していない被害児童において、保護者の多くがその理由を「特に理由はない」と回答しており、関心の低さが見られた。

【フィルタリングの利用状況】 n=1,540



【保護者がフィルタリングを利用しなかった理由】 ※複数回答あり

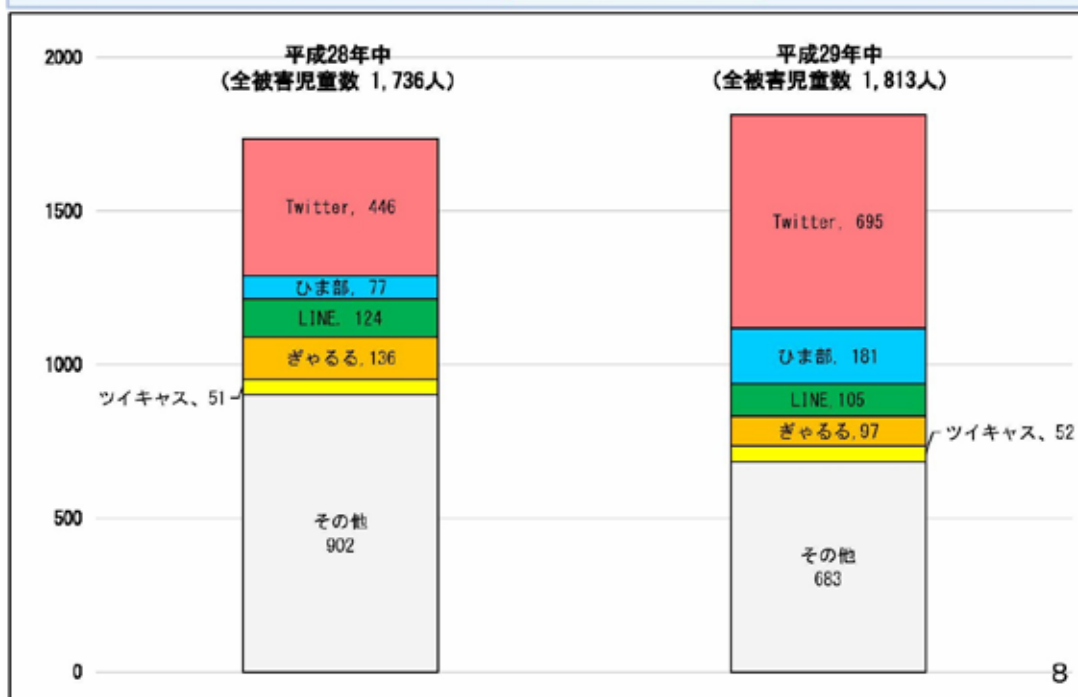


7

フィルタリングの利用状況です。被害に遭った子がフィルタリングをしていたかどうかですが、被害に遭った児童の8割強は、全く利用していませんでした。契約時からつけていないケースが最も多く、被害児童の保護者になぜフィルタリングをつけなかったか尋ねると、「特に理由がない」が最も多く、信念を持ってというよりも、関心が低いことが多いのかと感じています。

被害児童数が多いサイト

「Twitter」と「ひま部」に起因する被害児童数が増加。**3人に1人以上が「Twitter」**に起因して被害に遭っている。



被害児童数が多いサイトとして、平成28年中と平成29年中を並べています。「Twitter」「ひま部」「LINE」「ぎゃるる」、先ほど竹内先生から御紹介があった「ツイキャス」なども、被害の舞台になっています。

子供が被害に遭うきっかけ～子供自身によるSNSへの書き込み～

- 子供自身がSNSへの書き込みを行い、それがきっかけで面識のない者と知り合うことが、犯罪被害のきっかけとなるケースが多い。
- 子供が積極的に援助交際を募集する書き込みをSNSで行うケースのほか、子供の通常の書き込みに加害者がフォローすることで知り合うケースもある。

被害に遭うきっかけとなった子供の書き込みの例

【援助交際を積極的に募集する書き込み】

「〇〇住み。JK3。」 ※ JKは女子高校生、JCは女子中学生、JSは女子小学生を指す。
「〇〇[行為名]なら△△円、〇〇[行為名]なら△△円、〇〇[行為名]なら△△円。」
「援交できますか?」、「えん募集」、「円募集」

【自己紹介の書き込み】

「〇〇[児童のニックネーム]。〇〇県。中学校〇年生、〇〇[音楽グループ名]好き。〇〇[部活名]やっています。」
「〇〇[マンガ名]が好き。」

【友達を募集する書き込み】

「友達が欲しい。」
「〇〇[ゲーム名]とか〇〇[アニメ名]の話できる人募集」

【家出中の書き込み】

「家出先を探しています。」
「家出したいなー」
「家出したい。学校でいじめられている。」

10

次に、被害実態をもう少し細かく御説明します。SNSに起因する被害で多いパターンは、児童自身がSNSに書き込みを行い、それがきっかけで、面識のない者と知り合うこととなります。先ほども画面で具体的な話がありましたが、例えば一番上の「援助交際を積極的に募集する書き込み」では、生ならいくらとか、何かそのようなことを書いていましたが、このような露骨な書き方をしているものもあります。また援助交際を直接求める書き込みではなくても、「自己紹介の書き込み」や「友達を募集する書き込み」、こういうものはやりがちだとは思いますが、ここに引っ掛けて大人が接近し、やり取りをするうちに会うようになることも、大変多くなっています。一番下の「家出中の書き込み」、これもかなりあると思いますが、これも非常に危険なものだと思います。このように書くと「うちに泊めてあげるよ」と書いてくる人が実際に多く、それで被害に遭うこととなります。

Twitterに限らずSNSはよく御存知の方も多いかと思いますが、まずこのようなものを公に誰でも見られる状態で書いておいて、ある程度話がついてくるといわゆるDMと呼ばれるダイレクトメッセージに移り、個別の交渉の中で実際の被害の現場に至ることが多いと思います。